

二 部 地 区 活 性 化 だ よ り

野上川の風

発 行
二部地区活性化推進機構

編 集
総 務 部 会

事 務 局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二部公民館内
TEL・FAX 0859-62-7159



学び舎は今

かつては、地域の人材育成と

地域の拠点施設だった

学び舎も過疎少子化は

いかんともし難く閉校となる

今学び舎は農家食堂

上代学校として新しく地域の

拠点施設に生まれ変わった

今後に期待をしたい

福岡学校の前進は明治八年
上代学校として開校されました
平成十九年休校となるまで
百三十有余年数多くの人材を
育ててきました。
この施設の利用に当り、名称も開校
当時の上代学校として生まれ
変わりました。

第27回

たたらまつり

二部地区

特別展担当

仲田直志

「たたらまつり」も今年で二十七回を数え、天候にも恵まれて町内外から数多くの方に来場をいただきました。

昨年は、初めての「どぶろく」販売もあり開催時間前から行列ができるほどで、さあ、今年はどうかと多少心配ではありましたが混乱もなく二階作品展・二階特別展、地元農産物の即売とも順調であつたようです。

今年の二階特別展では、『二部谷が生んだ芸術家：彫刻・書・洋画の世界



特別展作品説明風景

へ」と題し、彫刻：辻晉堂・藤田英樹 書道：山根溪石、洋画：八橋誠滋の各氏作品を展示いたしました。

辻晉堂氏は、昨年十月「生誕百年」を迎え鳥取県立博物館及び神奈川県立近代美術館でそれぞれ鳥取展・鎌倉展が開催され、二部小学校や公民館からも、鳥取県立博物館へ観覧に出かけたところでした。

今回の特別展では二階での展示ということもあり、搬入搬出が困難な大きな作品展示は行わず、地元に残る木彫から陶器、掛け軸、欄間、粘土細工、表紙絵などショーケースに納められる大きさの逸品をお借りして展示することとしました。どれも魅力ある作品ばかりで、戦前・戦中の作品は写実に優れ、京都に迎えられてからの抽象的造型で国際的にも名を知られる芸術家と成った辻晉堂の「礎」と言うべき貴重な作品です。

そして、高校生の頃に辻晉堂の木彫に出会い、その迫力に圧倒されたのが彫刻の世界へ入ったきっかけ、という藤田英樹氏は福居出身。特別展入り口の人物像は驚かれたことと思います。多くの人が入るなり「オーッッ！」と声を出しておられました。

私が藤田さんの作品と初めて出合った

のが、米子の西部総合事務所入り口に設置されている「太陽と月の神話」です。製作年は、米子彫刻シンポジウムの2006年で、この彫刻の前を通るたび「いいなあ誰の作品だろう？」と



太陽と月の神話

思っていました。二部谷出身の方だと知った時は驚きでした。この芸術文化を取り上げた今回の特別展に出品の依頼をし、作品の搬入にもご協力を頂きました。

書道の山根溪石氏は、日展特選を受賞され、日展の審査員にも就かれたほどの方で、その作品は県外にも多く所蔵されています。特別展では、地元で所蔵されている掛け軸や額、色紙、年賀、扇子等他では観られない作品を展示しました。「字は読めんけど、凄いい！」こう思われた方が多いと思います。

洋画の八橋誠滋氏は、昨年十二月に鳥取県文化功労賞を受賞されました。その受賞記念巡回展が米子市・鳥取市・倉吉市で開催され、受賞の功績と活動が広く紹介されました。その会場で展示された作品とパネルや冊子等をもそのまま二階特別展でも展示紹介をさせて頂き、独自に表現された素晴らしい作品を堪能して頂けたと思います。現在も意欲的に創作活動をされており、新しい作品の発表が楽しみです。

アンケートにも「二部谷は芸術文化の層が厚い」と町外の方からも驚く声もありました。それは、地域の人々が故人或いは現役の芸術家を大切にして



際しても、貴重な芸術作品を快く出品して頂き、ありがとうございました。

二部省が生んだ“芸術家”現役編



洋画 八橋誠滋

大正12年伯耆町船越生まれ。

鳥取師範学校卒業後、小学校教諭を務めながら創作活動に取り組み、自由美術展に出品。昭和39年には「主体美術協会」の結成に参加し、会員となる。その作品は、人の心の葛藤や人生をみつめた独自の表現となっている。

芸術クラブ賞（昭和60年）、スーゾーマルジス賞（平成元年、仏）を受賞。また、平成17年には郷土作家展「異景 八橋誠滋/渡里彰造の世界」展が開催されるなど、長年にわたり多くの実績を残している。

米子市美術展覧会及び鳥取県美術展覧会の審査員や運営委員を務めた。

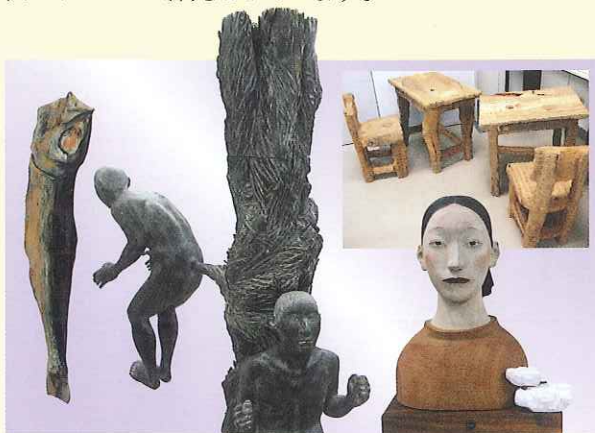
満87歳を迎える現在も意欲的に創作活動に励み、毎年作品を発表している。



彫刻 藤田英樹

1967 伯耆町福居生まれ
1990 鳥取大学教育学部美術専攻 卒業
1992 上越教育大学大学院 終了
現在 島根大学教育学部 准教授
国画会会員

高校生の頃、辻晋堂の木彫と出会い、その迫力に圧倒されたのが彫刻の世界に入ったきっかけでした。現在は島根大学で美術の教員養成を担いながら次のテーマで研究をしています。



(1) 木造彫刻に関する研究

木彫による作品制作を中心に研究を行っています。人物をモチーフに人間存在の不確かさやもろさなど、人間の内面性をテーマとした彫刻作品を発表しています。

(2) 場所性を取り入れた造形表現の研究

作品を展開する場に内在するトピックを、表現として様々な人の目に見える形に変換することで、地域や場の問題を考えていくきっかけを作りだしていくこともアートの役割と考えています。地域や社会、人との関わりを通して場所性を作品に取り込んだ作品の制作研究をしています。

(3) 造形ワークショップの実践研究

美術館などの社会教育施設を中心にワークショップの実践を行っています。学校での図工美術の時間が限られている現在、これらの施設でのワークショップは学校ではできない造形活動の出来る貴重な場所といえるでしょう。また、学校以上に実験的な造形活動が展開できる可能性も秘めています。美術館と大学、学生、地域などが協同したワークショップ題材を実践的に研究しています。

農家食堂・上代学校の開校によせて

(株)上代 住田 圭成

この度廃校となっていた福岡分校を活用して農家食堂 上代学校をオープンいたしました。農家食堂の開設に当たりましては、二部地区活性化推進機構を事業主体の窓口として、県や町のご支援をいただきました。

また、食のみやこ推進事業の補助金もいただき、米子南高校の家庭科の皆さんや、梅花亭とも連携しながら商品開発への取り組みも行っていました。

この様に県、町の行政機関を始め多くの関係者の支援をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。

福岡地区における学校の歴史は、郷土史によると明治八年、上代学校として開校され、歴史の変遷を経て今日に至っております。上代学校として学校の歴史が始まったのにちなみ、農家食堂上代学校と命名いたしました。

福岡分校は、地域住民にとりましては心のよりどころである思い入れの深い校舎であるだけに、時代の流れとはいえ地域から学校が無くなった寂しさは筆舌に表し難いものがありました。

それだけに廃校となった分校を過疎高齢化の著しい地域の活性化に何とか活かしたいという思いが上代学校の開設につながったと思います。

どぶろく特区の要件である農家食堂は、かあちゃんそばとして親しまれて来ましたが、この度上代学

校を開設するに当たり会場を移動し上代学校で一体的に運営し、従来のそばに加えて地域文化、通称たこさんにちなんでたこ料理をメニューに加えてオープンいたしました。山間地でなぜたこ料理なのかということについては、福岡神社の社殿によって行われているたこ舞式神事を地域文化として発信出来ること、また、福岡神社はかつて明治、大正時代は兵役のがれ、昭和の戦争の時代は武運長久の願い事が叶う神社として近在近郷から参詣者で賑わったことから願い事が叶うたこ神社にあやかり、多くの幸を呼び込んでもらいたいとの願いから多幸料理といたしました。

福岡分校の姿を出来るだけ残した食堂といたしましたのは、分校で学んだ地区出身者がなつかしさを感じ、家族連れで何回となく足を運び、地域の応援団となっていたきたいとの思いもあります。

後継者問題や、企業体としての安定的経営を図っていかねばならない等、多くの課題を抱えてのオープンですが、地域好き人間の仲間で問題意識を共有し、知恵や工夫をこらし取り組んでいきたいと思っております。



活動日誌メモ

(月 日)

(内 容)

平成二十二年

十、九 町民運動会二部地区大会準備

十、二〇 スポーツ部会打合せ

十、二五 地域活性化センター取材

十、二七 福祉ボランティア部会、花回廊(5名参加)とつとり花回廊

十、二八 中山間地域リーダー養成研修

十一、一 東亜青果打合せ(とつとり共生の里)

十一、五 ふるさと小包打合せ

十一、七 二部地区斉清掃(後期)240名参加・190kg 二部地域

十一、九 地域特産物打合せ

十一、二二 二部地区マラソン大会準備

十一、二四 二部地区マラソン大会

十一、二四 グランドゴルフ大会(ささふく水辺公園)

一二、一 ふるさと小包打合せ

一二、二 東亜青果打合せ(とつとり共生の里)

一二、八 区長協議会

一二、一五 県産しいたけをもつと食べ隊対応

一二、二〇 ふるさと小包準備

一二、二二 ふるさと小包準備

一二、二二 ふるさと小包発送式

平成二十三年

一、二二 区長協議会

一、一四 たたらまつり実行委員会打合せ

一、一八 東亜青果打合せ(とつとり共生の里)

(月 日)

(内 容)

一、二二 たたらまつり実行委員会打合せ

一、二四 たたらまつり一般作品打合せ

一、二七 出雲街道今昔物語打合せ

二、三 たたらまつり物産品販売打合せ

二、一八 たたらまつり準備

二、二三 備北商工会対応

二、二四 たたらまつり準備

二、二五 たたらまつり準備

二、二六 たたらまつり開催(二六・二八)

三、四 野菜づくり検討会

三、六 地域資源を活かした特産品開発のヒント研修会

三、一〇 全国町村会対応(三・一〇・二二)

三、二五 野菜づくり検討会

三、三〇 鳥取力ヒアリング

その他実績

出雲街道今昔物語発刊

あとがき

田植えも終わり梅雨の時期となりました。今年の冬は、昨年末より長期にわたる大雪で三月に入ってから寒い低温の日が続き、さくらの花も開花が遅れ気味でした。

水稻の苗の生育も伸び悩みの状況で今年の天候も異常気象が心配されましたが、なんとか天候も持ち直してよい年になることを期待したいと思います。

今年は、共生の里づくり協定を生かした新しい特産品の育成に努力したいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。